

学校コード F113310103313

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

届出

注2

東京電機大学大学院 工学研究科 電子システム工学専攻（修士課程）

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東京電機大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 東京千住キャンパス事務部

職名・氏名

電話番号 03-5284-5333

（夜間） 03-5284-5333

e-mail ko-kyomu@iim.dendai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

工学研究科

＜電子システム工学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人東京電機大学

(2) 大学名

東京電機大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒120-8551
東京都足立区千住旭町5番

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシヅカ マサアキ) 石塚 昌昭 (令和元年11月)		
学長	(イバモト タダヒコ) 射場本 忠彦 (令和元年10月)		
研究科委員長	(ニシカワ タダシ) 西川 正 (平成31年3月)		
専攻主任	(タドコロ タカシ) 田所 貴志 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学研究科 電子システム 工学専攻 修士（工学）	工学関係	2 年	25 人	年次 編入学定員 人	50 人	新規入学者を 募集中	【基礎となる学部】 工学部 電子システム工学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	25 (-) [-]	(-) [-]	25 (-) [-]	(-) [-]	0.62倍	-倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	18 (-) [-]	(-) [-]	19 (-) [-]	(-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	18 (-) [-]	(-) [-]	19 (-) [-]	(-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	16 (-) [-]	(-) [-]	17 (-) [-]	(-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	15 (-) [-]	(-) [-]	16 (-) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A							0.60		0.64				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次							15 [-] (-)	- [-] (-)	16 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次									15 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次											
4年次											
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	15 [-] (-)		31 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	15人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0人	0人	
令和4年度	31人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学研究科 電子システム工学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門研究	電子システム工学特別演習Ⅰ	1通	2			3							
	電子システム工学特別演習Ⅱ	2通	2			3							
	電子システム工学グループ輪講	1~2通	2			8	1						
	電子システム工学全体輪講	1~2通	2			3							
	電子システム工学特別研究	1~2通	6			8	1						
小計(5科目)		-	14	0	0	8	1	0	0	0	0		
専門科目	電子システム・電子情報	不規則信号処理	1・2前	2			1						
		並列システム解析	1・2前	2			1						
		マイクロプロセッサ特論	1・2後	2			1						
		知能ロボティクス特論	1・2前	2			1						
		VLSI設計工学特論	1・2後	2			1						
		システム制御理論	1・2後	2									兼1
		デジタルフィルタ特論	1・2後	2									兼1
		電気システム制御	1・2後	2									兼1
		ニューロコンピューティング	1・2後	2									兼1
		医用電子計測	1・2前	2									兼1
		デザイン工学特論	1・2後	2									兼1
		ネットワークロボティクス	1・2前	2									兼1
小計(12科目)		-	0	24	0	5	0	0	0	0	0	兼7	
電子物性・電子デバイス	電子物性・電子デバイス	半導体電子工学	1・2後	2									兼1
		半導体評価技術	1・2後	2			1						
		半導体特論	1・2前	2									兼1
		薄膜物性特論	1・2後	2									兼1
小計(4科目)		-	0	8	0	1	0	0	0	0	0	兼3	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門研究	電子システム工学特別演習Ⅰ	1通	2			3							
	電子システム工学特別演習Ⅱ	2通	2			3							
	電子システム工学グループ輪講	1~2通	2			8	1						
	電子システム工学全体輪講	1~2通	2					1	1		1		
	電子システム工学特別研究	1~2通	6			8	1						
小計(5科目)		-	14	0	0	8	1	0	1	0	1	0	
専門科目	電子システム・電子情報	不規則信号処理	1・2前	2			1						
		並列システム解析	1・2前	2			1						
		マイクロプロセッサ特論	1・2後	2			1						
		知能ロボティクス特論	1・2前	2			1						
		VLSI設計工学特論	1・2後	2			1						
		システム制御理論	1・2後	2									兼1
		デジタルフィルタ特論	1・2後	2									兼1
		電気システム制御	1・2後	2									兼1
		ニューロコンピューティング	1・2後	2									兼1
		医用電子計測	1・2前	2									兼1
		デザイン工学特論	1・2後	2									兼1
		ネットワークロボティクス	1・2前	2									兼1
小計(12科目)		-	0	24	0	5	0	0	0	0	0	兼7	
電子物性・電子デバイス	電子物性・電子デバイス	半導体電子工学	1・2後	2									兼1
		半導体評価技術	1・2後	2			1						
		半導体特論	1・2前	2									兼1
		薄膜物性特論	1・2後	2									兼1
		分子機能デバイス工学	1・2後	2								1	
小計(5科目)		-	0	10	0	1	0	0	1	0	0	兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	量子エレクトロニクス	1・2後	2								兼1
	光半導体素子工学	1・2前	2			1					
	光学デバイス・材料特論	1・2前	2			1					
	放電プラズマ工学特論	1・2後	2								兼1
	プラズマ工学特論	1・2後	2								兼1
	レーザー応用工学特論	1・2後	2			1					
	分光光学特論	1・2後	2								兼1
	光応用工学特論	1・2後	2								兼1
	光学機器製造技術特論	1・2前	2								兼1
	量子力学特論	1・2後	2								兼1
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	0	兼6
情報・通信	グラフィックスと応用数理	1・2後	2			1					
	情報ネットワーク工学特論	1・2後	2								兼1
	アルゴリズム論	1・2前	2								兼1
	人工知能	1・2後	2								兼1
	パターン認識特論	1・2前	2								兼1
小計(5科目)	-	0	10	0	1	0	0	0	0	0	兼4
共通科目	科学英語	1・2前・後	2			1					
	Practical English for Global Engineers	1後	2			1					
	総合技術特別講義	1・2通	2			1					
	融合技術戦略特論	1・2前	2								兼1
	研究者倫理	1前	2								兼1
	インターンシップ	1・2前・後	2			1					
	科学技術英語演習Ⅰ	1・2前	2								兼1
	科学技術英語演習Ⅱ	1・2後	2								兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2前	2								兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2後	2								兼1
	バイオメディカル・グローバルリゼーション・エンジニアリング概論	1前	2								兼1
小計(11科目)	-	0	22	0	2	0	0	0	0	0	兼4
合計(47科目)	-	14	84	0	9	1	0	0	0	0	兼22
卒業要件及び履修方法											
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	量子エレクトロニクス	1・2後	2								兼1
	光半導体素子工学	1・2前	2			1					
	光学デバイス・材料特論	1・2前	2				1				
	放電プラズマ工学特論	1・2後	2								兼1
	プラズマ工学特論	1・2後	2								兼1
	レーザー応用工学特論	1・2後	2			1					
	分光光学特論	1・2後	2								兼1
	光応用工学特論	1・2後	2								兼1
	光学機器製造技術特論	1・2前	2								兼1
	量子力学特論	1・2後	2								兼1
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	0	兼6
情報・通信	グラフィックスと応用数理	1・2後	2			1					
	情報ネットワーク工学特論	1・2後	2								兼1
	アルゴリズム論	1・2前	2								兼1
	人工知能	1・2後	2								兼1
	パターン認識特論	1・2前	2								兼1
小計(5科目)	-	0	10	0	1	0	0	0	0	0	兼4
共通科目	科学英語	1・2前・後	2			1					
	Practical English for Global Engineers	1後	2			1					
	総合技術特別講義	1・2通	2			1					
	融合技術戦略特論	1・2前	2								兼1
	研究者倫理	1前	2								兼3
	インターンシップ	1・2前・後	2			1					
	科学技術英語演習Ⅰ	1・2前	2								兼1
	科学技術英語演習Ⅱ	1・2後	2								兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2前	2								兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2後	2								兼1
	バイオメディカル・グローバルリゼーション・エンジニアリング概論	1前	2								兼1
小計(11科目)	-	0	22	0	2	0	0	0	0	0	兼6
合計(49科目)	-	14	86	0	9	1	0	1	0	0	兼24
卒業要件及び履修方法											
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
専門研究	電子システム工学特別演習Ⅰ	1通	2			3						
	電子システム工学特別演習Ⅱ	2通	2			3						
	電子システム工学グループ輪講	1～2通	2			8	1					
	電子システム工学全体輪講	1～2通	2			3						
	電子システム工学特別研究	1～2通	6			8	1					
小計(5科目)		-	14	0	0	8	1	0	0	0	0	
専門科目	電子システム・電子情報	不規則信号処理	1・2前	2			1					
		並列システム解析	1・2前	2			1					
		マイクロプロセッサ特論	1・2後	2			1					
		知能ロボティクス特論	1・2前	2			1					
		VLSI設計工学特論	1・2後	2			1					
		システム制御理論	1・2後	2								兼1
		デジタルフィルタ特論	1・2後	2								兼1
		電気システム制御	1・2後	2								兼1
		ニューロコンピューティング	1・2後	2								兼1
		医用電子計測	1・2前	2								兼1
デザイン工学特論	1・2後	2								兼1		
ネットワークロボティクス	1・2前	2								兼1		
小計(12科目)		-	0	24	0	5	0	0	0	0	兼7	
電子物性・電子デバイス	電子物性・電子デバイス	半導体電子工学	1・2後	2								兼1
		半導体評価技術	1・2後	2			1					
		半導体特論	1・2前	2								兼1
		薄膜物性特論	1・2後	2								兼1
		分子機能デバイス工学	1・2後	2						1		
小計(5科目)		-	0	10	0	1	0	0	1	0	兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	量子エレクトロニクス	1・2後		2							兼1
	光半導体素子工学	1・2前		2		1					
	光学デバイス・材料特論	1・2前		2			1				
	放電プラズマ工学特論	1・2後		2							兼1
	プラズマ工学特論	1・2後		2							兼1
	レーザー応用工学特論	1・2後		2		1					
	分光光学特論	1・2後		2							兼1
	光応用工学特論	1・2後		2							兼1
	光学機器製造技術特論	1・2前		2							兼1
	量子力学特論	1・2後		2							兼1
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	兼6	
専門科目	グラフィックスと応用数理	1・2後		2		1					
	情報ネットワーク工学特論	1・2後		2							兼1
	アルゴリズム論	1・2前		2							兼1
	人工知能	1・2後		2							兼1
	パターン認識特論	1・2前		2							兼1
小計(5科目)	-	0	10	0	1	0	0	0	0	兼4	
共通科目	科学英語(未開講)	1・2前・後		2		1					
	Practical English for Global Engineers	1後		2		1					
	総合技術特別講義	1・2通		2		1					
	融合技術戦略特論	1・2前		2							兼1
	研究者倫理	1前		2							兼3
	インターンシップ	1・2前・後		2		1					
	科学技術英語演習Ⅰ	1・2前		2							兼1
	科学技術英語演習Ⅱ	1・2後		2							兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	1・2前		2							兼1
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	1・2後		2							兼1
	バイオメディカル・グローバルイノベーション・エンジニアリング概論	1前		2							兼1
小計(11科目)	-	0	22	0	2	0	0	0	0	兼6	
合計(48科目)	-	14	86	0	9	1	0	1	0	兼24	
卒業要件及び履修方法											
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・ 教育充実のため、「分子機能デバイス工学」(配当年次:1・2後、単位数:選択2単位)を新設し、「助教1」を配置。
- ・ 教育充実のため、「研究者倫理」の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」へ変更。

【令和4年度】

- ・ 教育充実のため、「電子システム工学全体輪講」の配置を「教授3」から「教授1、准教授1、助教1」へ変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	42 科目	0 科目	47 科目	5 科目 [0]	43 科目 [1]	0 科目 [0]	48 科目 [1]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{47} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

4. 既設大学等の状況

大学等の名称	東京電機大学大学院						1		2		備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員割入年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
大学院工学研究科修士課程	2	170	-	340	-	1.08	1.05	-	昭和33	-	
電気電子工学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	1.09	0.97	令和3	平成21	東京都足立区千住旭町5番	定員変更(△25)
電子システム工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.62	0.64	令和3	令和3	同上	
物質工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	1.24	1.16	-	平成3	同上	
機械工学専攻	2	30	-	60	修士(工学)	1.08	1.06	令和3	平成13	同上	定員変更(△25)
先端機械工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	1.70	1.68	令和3	令和3	同上	
情報通信工学専攻	2	30	-	60	修士(工学)	0.85	0.90	-	平成2	同上	
大学院理工学研究科修士課程	2	122	-	244	-	1.05	1.09	-	昭和56	-	
理学専攻	2	15	-	30	修士(理学)	1.00	1.00	-	平成21	埼玉県比企郡鳩山町石坂	
生命理工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.68	0.76	-	平成21	同上	
情報学専攻	2	34	-	68	修士(情報学)	1.24	1.17	令和3	平成21	同上	定員変更(△1)
電子・機械工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成25	同上	令和3年度より学生募集停止
機械工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	1.13	1.22	令和3	令和3	同上	
電子工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	1.41	1.50	令和3	令和3	同上	
建築・都市環境学専攻	2	12	-	24	修士(工学)	0.70	0.83	-	平成25	同上	
大学院未来科学研究科修士課程	2	140	-	280	-	0.92	0.90	-	平成21	-	
建築学専攻	2	60	-	120	修士(工学)	0.79	0.73	-	平成21	・東京都足立区千住旭町5番 ・千葉県印西市武西学園台2-1200	
情報メディア学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	0.94	1.14	-	平成21	同上	
ロボット・メカトロニクス学専攻	2	45	-	90	修士(工学)	1.09	0.95	令和3	平成21	同上	定員変更(△5)
システムデザイン工学研究科	2	60	-	120	-	0.71	0.73	令和3	令和3	-	
情報システム工学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	0.67	0.74	令和3	令和3	東京都足立区千住旭町5番	
デザイン工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.78	0.72	令和3	令和3	同上	
大学院先端科学技術研究科博士課程(後期)	3	22	-	66	-	0.50	0.40	-	平成18	-	
数理学専攻	3	2	-	6	博士(理学)	0.00	0.00	令和3	平成18	・東京都足立区千住旭町5番 ・埼玉県比企郡鳩山町石坂 ・千葉県印西市武西学園台2-1200	定員変更(△1)
電気電子システム工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.68	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
情報通信メディア工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.71	0.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
機械システム工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.31	0.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
建築・建設環境工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.33	0.33	-	平成18	同上	
物質生命理工学専攻	3	3	-	9	博士(工学) 博士(理学)	0.22	0.00	-	平成18	同上	
先端技術創成専攻	3	3	-	9	博士(工学) 博士(理学)	0.69	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
情報学専攻	3	2	-	6	博士(情報学)	1.05	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△1)
大学院全体	-	514	-	1,050	-	-	-	-	-	-	大学院の修業年限は、修士課程2年、博士課程(後期)3年である。

大学の名称	東京電機大学					学生募集停止学科数		1	0	備考
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	令和3年度(AC期間の学科のみ)の入学定員超過率	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
工学部	4	610	-	2,440	-	1.09	1.11	-	平成19	-
電気電子工学科	4	120	-	480	学士(工学)	1.05	1.10	-	平成19	東京都足立区千住旭町5番
電子システム工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.13	1.18	-	平成29	同上
応用化学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.11	1.10	-	平成29	同上
機械工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.05	1.04	-	平成19	同上
先端機械工学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.08	1.08	-	平成29	同上
情報通信工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.11	1.17	-	平成19	同上
工学部第二部	4	180	-	720	-	1.02	1.08	-	昭和27	-
電気電子工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.05	1.08	-	平成20	東京都足立区千住旭町5番
機械工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.00	1.13	-	昭和37	同上
情報通信工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.02	1.03	-	昭和36	同上
理工学部	4	600	-	2,400	-	1.11	1.10	-	昭和52	-
理工学科	4	600	-	2,400	学士(理学) 学士(工学) 学士(工学) 学士(情報学)	1.11	1.10	-	平成19	埼玉県比企郡鳩山町石坂
情報環境学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成13	-
情報環境学科	4	-	-	-	学士(情報環境学)	-	-	-	平成18	東京都足立区千住旭町5番
未来科学部	4	350	-	1,400	-	1.11	1.11	-	平成19	-
建築学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.09	1.10	-	平成19	・東京都足立区千住旭町5番 ・千葉県印西市武西学園台2-1200
情報メディア学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.13	1.16	-	平成19	同上
ロボット・メカトロニクス学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.11	1.06	-	平成19	同上
システムデザイン工学部	4	240	-	960	-	1.11	1.13	-	平成29	-
情報システム工学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.13	1.09	-	平成29	東京都足立区千住旭町5番
デザイン工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.09	1.18	-	平成29	東京都足立区千住旭町5番
大学全体	-	1,980	-	7,920	-	-	-	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めることとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。(先端機械工学専攻(M))</p>	<p>遵守事項</p> <p>・退職年齢を超える者の後任人事については、専攻において、当該科目分野を担当するにふさわしい教員の選考を行い、年齢構成のバランスを考慮した人材の確保に努めている。 また、専攻において、専任教員人事計画を策定し、年次計画(教員採用計画・配置計画)を大学評議会において審議・承認した上で、教員採用を行うことで、教員組織編成の適正化を図った。</p>	履行済
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学研究科 電子システム工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 授業実施方法 教室等において、いわゆる面接授業で実施。	① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室等における面接授業と、オンラインによる遠隔講義を併用するハイブリッド型で授業を実施する。(3) 特になし。(4)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育改善推進委員会 ・ 工学研究科運営委員会 ・ 工学研究科委員会 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工学研究科運営委員会は月1回開催(教員委員7名が参加) ・ 工学研究科委員会は月1回開催(教員委員70名(令和3年9月以降71名)が参加) <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工学研究科運営委員会および工学研究科委員会 将来計画、入学試験、教務、学生厚生及び賞罰、自己点検・評価等に関する事項 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成 ・ FD/SDセミナー ・ ステークホルダーアンケート(本学の課題) <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスは統一されたフォーマットに基づき作成し、第三者によるチェックを行う。 ・ FD/SDについては、教育改善推進室を中心に、組織的かつ全学的な活動を展開する。 ・ 工学研究科のFDを実施する。 ・ ステークホルダーアンケートは、全学的に実施し、在学生、卒業生・修了生および既卒者の満足度等や企業アンケートを調査する。 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成および第三者チェックについては、全科目において行った。 ・ 令和3年度のFD/SDセミナーは、教育改善推進室等において全6回開催し、延べ715人の参加があった。 ・ 令和3年度の工学研究科FDを研究科委員会において開催し、67人の参加があった。 ・ ステークホルダーアンケート結果を研究科委員会で報告した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ シラバスについては、第三者チェックによる記載内容や達成目標等の点検を行い、授業改善に反映させた。
- ・ FD/SDセミナーにおいて、令和5年度大学院カリキュラム改編への対応として、大学院の3つのポリシーの改正について検討を開始した。
- ・ 工学研究科FDにおいて、3つのポリシーや学位授与方針の改正の他、研究指導方法の学生への明示や研究科の将来計画について議論した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 授業評価アンケートは毎年度前期及び後期の2回実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 授業評価アンケートについては、その結果を担当教員にフィードバックし、各担当教員が必要な改善を行う。また、ホームページにおいて学生への公開を行う。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

工学研究科電子システム工学専攻は、学部教育で養った電子工学及び光工学・情報工学に関する総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、当該分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を養成することを目的として設置した。

本専攻では、電子工学及び光・情報関連の先端的分野における課題を自主的に探究し、実践的に解決できるように教育課程を編成し、実施している。具体的には、「電子物性・電子デバイス部門」「電子システム・電子情報部門」「光エレクトロニクス・光工学部門」の3つの部門に「情報・通信」を履修区分に加え、リサーチワークとコースワークの科目をバランス良く配置している。

リサーチワーク科目としては、電子工学および光・情報関連の先端的分野における課題を自主的に探求し、実践的に解決できる能力、深い考察力と課題解決力を育む科目群を配置している。

コースワーク科目としては、グローバル時代の技術者に必要な語学力と研究発信力、先端の工学の知識や技術を継続的に修得できる学力、それらを伝達できるプレゼンテーション能力を育む科目群を配置している。

以上のように、本専攻の人材養成目的に見合う授業科目を開講している。

教育課程の適切性については、教育研究改善推進委員会及び運営委員会で、科目の配置や内容、カリキュラムマップ、教育体系などに関する協議を行い、カリキュラムを確認することで、学生の専門性を高めるための教育課程編成がなされていることは評価できる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年8月末頃 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和4年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和5年に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F113310103313

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

届出

注2

東京電機大学大学院 工学研究科 先端機械工学専攻（修士課程）

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東京電機大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 東京千住キャンパス事務部

職名・氏名

電話番号 03-5284-5333

（夜間） 03-5284-5333

e-mail ko-kyomu@iim.dendai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

工学研究科

＜先端機械工学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人東京電機大学

(2) 大学名

東京電機大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒120-8551
東京都足立区千住旭町5番

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシヅカ マサアキ) 石塚 昌昭 (令和元年11月)		
学長	(イバモト タダヒコ) 射場本 忠彦 (令和元年10月)		
研究科委員長	(ニシカワ タダシ) 西川 正 (平成31年3月)		
専攻主任	(サトウ タイチ) 佐藤 太一 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学研究科 先端機械 工学専攻 修士（工学）	工学関係	2 年	25 人	年次 編入学定員 人	50 人	新規入学者を 募集中	【基礎となる学部】 工学部先端機械工学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	25 (-) [-]	() []	25 (-) [-]	() []	() []	1.70倍	-倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	53 (-) [3]	- (-) [-]	44 (-) [3]	- (-) [-]	() []			() []
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	53 (-) [3]	- (-) [-]	44 (-) [3]	- (-) [-]	() []			() []
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	44 (-) [3]	- (-) [-]	42 (-) [3]	- (-) [-]	() []			() []
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	43 (-) [3]	- (-) [-]	42 (-) [3]	- (-) [-]	() []			() []
入学定員超過率 B/A							1.72		1.68					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次							43 [3] (-)	- [-] (-)	42 [3] (-)	- [-] (-)	
2年次									43 [3] (-)	- [-] (-)	
3年次											
4年次											
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	43 [3] (-)	85 [6] (-)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	43 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	85 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{85} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学研究科 先端機械工学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門研究	先端機械工学特別演習Ⅰ	1通	2			2						
	先端機械工学特別演習Ⅱ	2通	2			3						
	先端機械工学グループ輪講	1~2通	2			7	2					
	先端機械工学全体輪講	1~2通	2			3	2					
	先端機械工学特別研究	1~2通	6			7	2					
	小計(5科目)	-	14	0	0	7	2	0	0	0	0	
専門科目	材料加工・生産システム	有限要素法特論	1・2後	2								兼1
		材料工学特論	1・2前	2								兼1
		機械加工工学特論	1・2前	2		1						兼1
		塑性学特論	1・2後	2		1						
		光応用工学特論	1・2後	2			1					
		光微細加工技術特論	1・2前	2								兼1
		光学機器製造技術特論	1・2前	2				1				
		レンズ設計工学特論	1・2前	2								兼1
	小計(8科目)	-	0	16	0	2	1	0	0	0	0	兼5
	計測・制御・人間システム	振動のモデリングと解析	1・2後	2			1					
知能ロボット工学特論		1・2前	2								兼1	
バイオ・マイクロマシン特論		1・2前	2								兼1	
メカニカル制御特論		1・2前	2			1						
車両運動制御特論		1・2前	2			1						
鉄道車両特論		1・2後	2								兼1	
精密測定特論		1・2後	2			1						
ネットワークロボティクス		1・2前	2								兼1	
小計(8科目)	-	0	16	0	4	0	0	0	0	0	兼4	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門研究	先端機械工学特別演習Ⅰ	1通	2			1	2					
	先端機械工学特別演習Ⅱ	2通	2			3						
	先端機械工学グループ輪講	1~2通	2			8	2					
	先端機械工学全体輪講	1~2通	2			5	1					
	先端機械工学特別研究	1~2通	6			8	2					
	小計(5科目)	-	14	0	0	8	3	0	0	0	0	
専門科目	材料加工・生産システム	有限要素法特論	1・2後	2								兼1
		材料工学特論	1・2前	2								兼1
		機械加工工学特論	1・2前	2		1						兼1
		塑性学特論	1・2後	2		1						
		光応用工学特論	1・2後	2				1				
		光微細加工技術特論	1・2前	2								兼1
		光学機器製造技術特論	1・2前	2					1			
		レンズ設計工学特論	1・2前	2								兼1
	小計(8科目)	-	0	16	0	2	1	0	0	0	0	兼5
	計測・制御・人間システム	振動のモデリングと解析	1・2後	2			1					
知能ロボット工学特論		1・2前	2								兼1	
バイオ・マイクロマシン特論		1・2前	2								兼1	
メカニカル制御特論		1・2前	2			1						
車両運動制御特論		1・2前	2			1						
鉄道車両特論		1・2後	2								兼1	
精密測定特論		1・2後	2			1						
ネットワークロボティクス		1・2前	2								兼1	
小計(8科目)	-	0	16	0	4	0	0	0	0	0	兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生体システム特論	1・2後		2		1						
	医用工学機器論	1・2後		2		1						
	メディカル・メカトロニクス	1・2前		2			1					
	小計(3科目)	-	0	6	0	2	1	0	0	0	0	
共通科目	科学英語	1・2前・後		2		1						
	Practical English for Global Engineers	1後		2								兼1
	総合技術特別講義	1・2通		2		1						
	融合技術戦略特論	1・2前		2								兼1
	研究者倫理	1前		2								兼1
	MOT概論	1・2後		2								兼1
	インターンシップ	1・2前・後		2		1						
	バイオメディカル・グローバルリゼーション・エンジニアリング概論	1前		2								兼1
小計(8科目)	-	0	16	0	2	0	0	0	0	0	兼5	
合計(32科目)	-	14	54	0	8	2	0	0	0	0	兼14	
卒業要件及び履修方法												
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生体システム特論	1・2後		2		1						
	医用工学機器論	1・2後		2		1						
	メディカル・メカトロニクス	1・2前		2			1					
	小計(3科目)	-	0	6	0	2	1	0	0	0	0	
共通科目	科学英語	1・2前・後		2		1						
	Practical English for Global Engineers	1後		2								兼1
	総合技術特別講義	1・2通		2		1						
	融合技術戦略特論	1・2前		2								兼1
	研究者倫理	1前		2								兼3
	MOT概論	1・2後		2								兼1
	インターンシップ	1・2前・後		2		1						
	バイオメディカル・グローバルリゼーション・エンジニアリング概論	1前		2								兼1
小計(8科目)	-	0	16	0	2	0	0	0	0	0	兼7	
合計(32科目)	-	14	54	0	8	3	0	0	0	0	兼16	
卒業要件及び履修方法												
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門研究	先端機械工学特別演習Ⅰ	1通	2			2	1					
	先端機械工学特別演習Ⅱ	2通	2			3						
	先端機械工学グループ輪講	1~2通	2			8	2					
	先端機械工学全体輪講	1~2通	2			3	2					
	先端機械工学特別研究	1~2通	6			8	2					
	小計(5科目)	-	14	0	0	8	2	0	0	0	0	
専門科目	材料加工・生産システム	有限要素法特論	1・2後	2								兼1
		材料工学特論	1・2前	2								兼1
		機械加工工学特論	1・2前	2		1						兼1
		塑性学特論	1・2後	2		1						
		光応用工学特論	1・2後	2			1					
		光微細加工技術特論	1・2前	2								兼1
		光学機器製造技術特論	1・2後	2				1				
		レンズ設計工学特論	1・2前	2								兼1
	小計(8科目)	-	0	16	0	2	1	0	0	0	0	兼5
	計測・制御・人間システム	振動のモデリングと解析	1・2後	2			1					
知能ロボット工学特論		1・2前	2								兼1	
バイオ・マイクロマシン特論		1・2前	2								兼1	
メカニカル制御特論		1・2前	2			1						
車両運動制御特論		1・2前	2			1						
鉄道車両特論		1・2後	2								兼1	
精密測定特論		1・2後	2			1						
ネットワークロボティクス		1・2前	2								兼1	
小計(8科目)	-	0	16	0	4	0	0	0	0	0	兼4	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	福祉医療・システム	生体システム特論	1・2後	2			1					
		医用工学機器論	1・2後	2			1					
		メディカル・メカトロニクス	1・2前	2				1				
	小計(3科目)	-	0	6	0	2	1	0	0	0	0	

共通科目	科学英語(未開講)	1・2前・後	2	1							
	Practical English for Global Engineers	1後	2								兼1
	総合技術特別講義	1・2通	2	1							
	融合技術戦略特論	1・2前	2								兼1
	研究者倫理	1前	2								兼3
	MOT概論	1・2後	2								兼1
	インターンシップ	1・2前・後	2	1							
	バイオメディカル・グローバル セッション・エンジニアリング概論	1前	2								兼1
小計(8科目)	-	0	16	0	2	0	0	0	0	兼7	
合計(32科目)	-	14	54	0	8	2	0	0	0	兼16	
卒業要件及び履修方法											
課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学中で修了を認めることができる。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・ 教育充実のため、「先端機械工学特別演習Ⅰ」の配置を「准教授0」から「准教授1」へ変更。
- ・ 教育充実のため、「先端機械工学グループ輪講」の配置を「教授7」から「教授8」へ変更。
- ・ 教育充実のため、「先端機械工学特別研究」の配置を「教授7」から「教授8」へ変更。
- ・ 教育充実のため、「光学機器製造技術特論」の配当年次を「1・2前」から「1・2後」へ変更。
- ・ 教育充実のため、「研究者倫理」の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」へ変更。

【令和4年度】

- ・ 教育充実のため、「先端機械工学特別演習Ⅰ」の配置を「教授2」から「教授1」へ、「准教授1」から「准教授2」へ変更。
- ・ 教育充実のため、「先端機械工学全体輪講」の配置を「教授3」から「教授5」へ、「准教授2」から「准教授1」へ変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	27 科目	0 科目	32 科目	5 科目 [0]	27 科目 [0]	0 科目 [0]	32 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{32} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

4. 既設大学等の状況

大学等の名称	東京電機大学大学院						1	2	備考		
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号				平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率
大学院工学研究科修士課程	2	170	-	340	-	1.08	1.05	-	昭和33	-	-
電気電子工学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	1.09	0.97	令和3	平成21	東京都足立区千住旭町5番	定員変更(△25)
電子システム工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.62	0.64	令和3	令和3	同上	
物質工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	1.24	1.16	-	平成3	同上	
機械工学専攻	2	30	-	60	修士(工学)	1.08	1.06	令和3	平成13	同上	定員変更(△25)
先端機械工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	1.70	1.68	令和3	令和3	同上	
情報通信工学専攻	2	30	-	60	修士(工学)	0.85	0.90	-	平成2	同上	
大学院理工学研究科修士課程	2	122	-	244	-	1.05	1.09	-	昭和56	-	-
理学専攻	2	15	-	30	修士(理学)	1.00	1.00	-	平成21	埼玉県比企郡鳩山町石坂	
生命理工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.68	0.76	-	平成21	同上	
情報学専攻	2	34	-	68	修士(情報学)	1.24	1.17	令和3	平成21	同上	定員変更(△1)
電子・機械工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	-	-	平成25	同上	令和3年度より学生募集停止
機械工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	1.13	1.22	令和3	令和3	同上	
電子工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	1.41	1.50	令和3	令和3	同上	
建築・都市環境学専攻	2	12	-	24	修士(工学)	0.70	0.83	-	平成25	同上	
大学院未来科学研究科修士課程	2	140	-	280	-	0.92	0.90	-	平成21	-	-
建築学専攻	2	60	-	120	修士(工学)	0.79	0.73	-	平成21	・東京都足立区千住旭町5番 ・千葉県印西市武西学園台2-1200	
情報メディア学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	0.94	1.14	-	平成21	同上	
ロボット・メカトロニクス学専攻	2	45	-	90	修士(工学)	1.09	0.95	令和3	平成21	同上	定員変更(△5)
システムデザイン工学研究科	2	60	-	120	-	0.71	0.73	令和3	令和3	-	-
情報システム工学専攻	2	35	-	70	修士(工学)	0.67	0.74	令和3	令和3	東京都足立区千住旭町5番	
デザイン工学専攻	2	25	-	50	修士(工学)	0.78	0.72	令和3	令和3	同上	
大学院先端科学技術研究科博士課程(後期)	3	22	-	66	-	0.50	0.40	-	平成18	-	-
数理学専攻	3	2	-	6	博士(理学)	0.00	0.00	令和3	平成18	・東京都足立区千住旭町5番 ・埼玉県比企郡鳩山町石坂 ・千葉県印西市武西学園台2-1200	定員変更(△1)
電気電子システム工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.68	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
情報通信メディア工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.71	0.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
機械システム工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.31	0.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
建築・建設環境工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	0.33	0.33	-	平成18	同上	
物質生命理工学専攻	3	3	-	9	博士(工学) 博士(理学)	0.22	0.00	-	平成18	同上	
先端技術創成専攻	3	3	-	9	博士(工学) 博士(理学)	0.69	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△2)
情報学専攻	3	2	-	6	博士(情報学)	1.05	1.00	令和3	平成18	同上	定員変更(△1)
大学院全体	-	514	-	1,050	-	-	-	-	-	-	大学院の修業年限は、修士課程2年、博士課程(後期)3年である。

大学の名称	東京電機大学					学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	令和4年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
工学部	4	610	-	2,440	-	1.09	1.11	-	平成19	-	
電気電子工学科	4	120	-	480	学士(工学)	1.05	1.10	-	平成19	東京都足立区千住旭町5番	
電子システム工学科	4	90	-	360	学士(工学)	1.13	1.18	-	平成29	同上	
応用化学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.11	1.10	-	平成29	同上	
機械工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.05	1.04	-	平成19	同上	
先端機械工学科	4	100	-	400	学士(工学)	1.08	1.08	-	平成29	同上	
情報通信工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.11	1.17	-	平成19	同上	
工学部第二部	4	180	-	720	-	1.02	1.08	-	昭和27	-	
電気電子工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.05	1.08	-	平成20	東京都足立区千住旭町5番	
機械工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.00	1.13	-	昭和37	同上	
情報通信工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.02	1.03	-	昭和36	同上	
理工学部	4	600	-	2,400	-	1.11	1.10	-	昭和52	-	
理工学科	4	600	-	2,400	学士(理学) 学士(工学) 学士(情報学)	1.11	1.10	-	平成19	埼玉県比企郡鳩山町石坂	
情報環境学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成13	-	
情報環境学科	4	-	-	-	学士(情報環境学)	-	-	-	平成18	東京都足立区千住旭町5番	平成29年度より学生募集停止
未来科学部	4	350	-	1,400	-	1.11	1.11	-	平成19	-	
建築学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.09	1.10	-	平成19	・東京都足立区千住旭町5番 ・千葉県印西市武西学園台2-1200	
情報メディア学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.13	1.16	-	平成19	同上	
ロボット・メカトロニクス学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.11	1.06	-	平成19	同上	
システムデザイン工学部	4	240	-	960	-	1.11	1.13	-	平成29	-	
情報システム工学科	4	130	-	520	学士(工学)	1.13	1.09	-	平成29	東京都足立区千住旭町5番	
デザイン工学科	4	110	-	440	学士(工学)	1.09	1.18	-	平成29	東京都足立区千住旭町5番	
大学全体	-	1,980	-	7,920	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めることとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。(先端機械工学専攻(M))</p>	<p>遵守事項</p> <p>・退職年齢を超える者の後任人事については、専攻において、当該科目分野を担当するにふさわしい教員の選考を行い、年齢構成のバランスを考慮した人材の確保に努めている。 また、専攻において、専任教員人事計画を策定し、年次計画(教員採用計画・配置計画)を大学評議会において審議・承認した上で、教員採用を行うことで、教員組織編成の適正化を図った。</p>	履行済
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学研究科 先端機械工学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 授業実施方法 教室等において、いわゆる面接授業で実施。	① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室等における面接授業と、オンラインによる遠隔講義を併用するハイブリッド型で授業を実施する。(3) 特になし。(4)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育改善推進委員会 ・ 工学研究科運営委員会 ・ 工学研究科委員会 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工学研究科運営委員会は月1回開催(教員委員7名が参加) ・ 工学研究科委員会は月1回開催(教員委員70名(令和3年9月以降71名)が参加) <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工学研究科運営委員会および工学研究科委員会 将来計画、入学試験、教務、学生厚生及び賞罰、自己点検・評価等に関する事項 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成 ・ FD/SDセミナー ・ ステークホルダーアンケート(本学の課題) <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスは統一されたフォーマットに基づき作成し、第三者によるチェックを行う。 ・ FD/SDについては、教育改善推進室を中心に、組織的かつ全学的な活動を展開する。 ・ 工学研究科のFDを実施する。 ・ ステークホルダーアンケートは、全学的に実施し、在学生、卒業生・修了生および既卒者の満足度等や企業アンケートを調査する。 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成および第三者チェックについては、全科目において行った。 ・ 令和3年度のFD/SDセミナーは、教育改善推進室等において全6回開催し、延べ715人の参加があった。 ・ 令和3年度の工学研究科FDを研究科委員会において開催し、67人の参加があった。 ・ ステークホルダーアンケート結果を研究科委員会で報告した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ シラバスについては、第三者チェックによる記載内容や達成目標等の点検を行い、授業改善に反映させた。
- ・ FD/SDセミナーにおいて、令和5年度大学院カリキュラム改編への対応として、大学院の3つのポリシーの改正について検討を開始した。
- ・ 工学研究科FDにおいて、3つのポリシーや学位授与方針の改正の他、研究指導方法の学生への明示や研究科の将来計画について議論した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 授業評価アンケートは毎年度前期及び後期の2回実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 授業評価アンケートについては、その結果を担当教員にフィードバックし、各担当教員が必要な改善を行う。また、ホームページにおいて学生への公開を行う。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

工学研究科先端機械工学専攻は、学部教育で養った機械技術分野、さらに関連分野である情報系、電気・電子系分野の基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・深化させ、材料・加工、計測・制御の分野から医療福祉分野やマイクロマシンなど、最先端の機械工学分野や広範囲な科学技術分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的として設置した。

本専攻では、「材料加工・生産システム部門」「計測・制御・人間システム部門」「医療・福祉システム部門」の3つの部門を核に、リサーチワークとコースワークの科目をバランスよく配置している。

リサーチワーク科目としては、機械工学及び周辺分野である、電気・電子・情報分野に関する多様な基礎知識を有機的に統合し、多種多様な技術的課題解決能力並びに深い考察力と課題解決力を育む科目群を配置している。

コースワーク科目としては、技術的課題に関する目的、問題点、対応方法、結果等を的確にまとめ上げ、文書及び口頭で報告できる能力を育む科目群を配置している。

以上のように、本専攻の人材養成目的に見合う授業科目を開講している。

教育課程の適切性については、教育研究改善推進委員会及び運営委員会で、科目の配置や内容、カリキュラムマップ、教育体系などに関する協議を行い、カリキュラムを確認することで、学生の専門性を高めるための教育課程編成がなされていることは評価できる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年8月末頃 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和4年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和5年に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。